

Une production des Films de la Suane,  
en coprod. avec Le Studio Canal+, France 2 Cinéma et Captain Movies.

MICHELE LAROQUE ALBERT DUPONTEL ELISE TIELROOY Producteur: Philippe ROUSSELET  
Réalisateur: James HUTH Scénario: James HUTH, Romain BERTHOMIEU Adapt.& Dialogues: James HUTH,  
Romain BERTHOMIEU, Hugo JACOMET Musique Originale: Bruno COULAIS Dir. de la photo: Jean-Claude THIBAUT



# SERIAL LOSER

シリアルラダー

カレ...死んじゃった...

# モテモテ 独身 35 歳 女性の 悲惨な 晩餐。



ですから、**全てが偶然**なんです! 確かに3人の男性は殺害しました。ええ、事実です。けれどそんなつもりはなかったんです。えっ? きっかけ? えっ~と 私、昨日で**35歳**になったんですけれど、それを祝ってもらおうと彼らに自宅に来てもらったんです。それで…ついでに**生涯の伴侶を選んじゃおう**と思っていたんですけど…。えっ? 意味が分からない? ですから、実は**3人に求婚**されていて、誰でもいいって訳じゃないけど、どいつも一長一短あって決めかねてまして…。いっそのこと彼ら3人で話し合っただけで決めてもらおうかなって…。冗談だろうって? いいえ、真剣でした。まあ、人それぞれやり方はあるはずだから…。でもって彼らがそれぞれ**用意しちやっした婚約指輪**…ところでふられちゃったら残った2人は指輪、どうするつもりだったんだろう? あっ、すみません。婚約指輪がキラリと輝くテーブルで、はい若干気まずくディナーを始めました。そうしたら…。(この続きは映画をご覧ください。)

容疑者 **クレール** の証言



気がついたら偶然の連続殺人犯。

なああんでこお~なるの??!

一寸先は闇!! あなたの予想を全て裏切っちゃう、ドミノ倒しの展開が待ちうけるスーパー・ナンセンス・ロマンチック・スプラッター・コメディ! キャリア、お金、知性、美貌、なんでも持っているイケイケ・ウーマンに襲いかかる絶体絶命緊急事態(=カレ、死んじゃった。どうしよう?)。監督はフランスで「我々は一人の得がたい歯医者者を買ったが、代わりに得がたい映画監督を獲得した」と絶賛されたジェームズ・ユット。(ちなみに彼の父親はフランスショービジネス御用達の歯医者。関係ないけど……) 数々の賞を受賞している2本の短篇やCM監督として活躍していたが、遂に本作で長篇の監督デビュー。ミステリー! ナンセンス! コメディ! ホラー! 感動! サスペンス! といったあらゆるジャンルをミキサーでギュル〜んと高速回転にかけたようなオリジナルな作品を作ったら、意外にもハリ映画祭で特別賞を受賞し、予想外にも批評家たちから高い評価を得ることになった、というのだから驚きである。このキテツな面白さは一度ハマったら抜けられない。さあ、劇場に急ごう!

以下の物が身近にある時、カレを夕食に誘ってはいけません。(実施済み)



ご注意!

- (月) 鴨(血のソース掛け?)
- (火) 鋭い肉切り包丁(ギラッ!)
- (水) ぎちぎちに詰め込まれた冷凍庫(いっぱい)
- (木) 滑りすぎるバスタブ(つるっ!)
- (金) 棚に注意深く置かれたスケート靴(置か!?)
- (土) ボーリングのmyボール(ストライク!)
- (日) 長過ぎる電話線(何のため?!)

## クセになる映画大賞/三ネートか!!!

ある意味「シリアル・ラヴァー」は、タイトルそのままの映画である。このタイトルでどんな映画を想像するか、で100人中75人ぐらいは、近いところまで行きそうである。しかし、戸惑うのは、この映画が「フランス映画」であり、「ギャグ映画」に近い「コメディ」であること。まして、刑事役で、フランス・ファンタスティック映画(はつきりホラーといえホラーと)界の怪才アルベール・デュボンテルが、一見、全く普通の演技で出てくること。ヒロインは、カルト映画「ぼくのバラ色の人生」でお母さん役を演じたミシェル・ラロック。そして、下手したら、この映画は「ロッキー・ホラー・ショー」的カルト的地位に君臨する可能性も秘めているということ。命を張ったギャグ・コメディ。これはひょっとしたらフランス映画に対するショック

療法だったかもしれない時代は早すぎたのかもしれない。このスレスレ・エンタテインメントの音楽を今や大巨匠(だって「キャラバン」「クリムゾン・リバー」の、でっせ)のブリュノ・クレグが作っていたというのもショッキング。主題歌「テリブル・チャチャ」は人をナメていて、キャッチー。キツチュで、そして、センスがありそでなぞぞでウツンで、口をアングリ開けてしまったまま、いやあ、やっぱりそうきましたか、大喝采のラストで締め。ハマったら抜けられない底無し沼のような映画です。わたしは、まだ抜けられてません!

(タワーレコード渋谷店 サウンドトラック担当 馬場敏裕)

製作:フィリップ・セル 監督:ジェームズ・ユット 脚本:ジェームズ・ユット、ロマン・ベルトミウ 脚色:ジェームズ・ユット、ロマン・ベルトミウ、ユゴ・ジャコメ 出演:ミシェル・ラロック【鮮紅いの専主】「ぼくのバラ色の人生」 アルベール・デュボンテル【バルニー】 エリーズ・ティエルロウイ 1998年/フランス映画/1:2.35/カラー/SRD/S.DTS/85分 配給:クレストインターナショナル Crest



# 7月28日(土)、いきなりレイトロードショー!!!

(8月10日(金)まで)  
連日PM9:00-10:30

◆前売券¥1400発売中◆

劇場窓口、チケットぴあ、ローソンやテレコムランド心斎橋などの市内プレイガイドにて  
劇場窓口でお求めの方には先着でポストカードプレゼントあり(なくなりしだい終了します)

心斎橋アメリカ村BIG STEP 4F 06 (6282) **パラダイスシネマ** 1460